

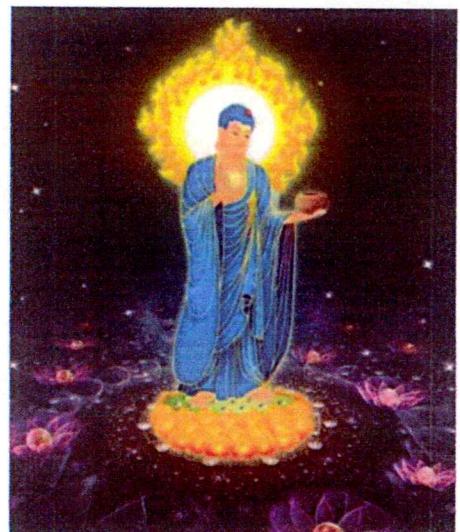
## 経教(きょう)はこれを喻(たと)うるに、鏡のごとし

## ◎仏説觀無量寿經(現代の聖典)に学ぶ

法語1(散善願行縁) 汝いま知れりやいなや、阿弥陀仏、此を去りたまうこと遠からず。汝當に繫念して、あきらかにかの國の淨業成じたまえる者を觀すべし。我いま汝がために、広くもろもろの譬を説かん。また、未來世の一切の凡夫の淨業を修せんと欲わん者をして、西方極樂國土に生ずることを得しめん。かの國に生まれんと欲わん者は、當に三福を修すべし。一つには父母に孝養し、師長に奉事し、慈心ありて殺せず、十善業を修す。二つには三帰を受持し、衆戒を具足し、威儀を犯せず。三つには菩提心を發し、深く因果を信じ、大乗を讀誦し、行者を勧進す。かくのごときの三事を名づけて淨業とす。

## 1、お釈迦さまの微笑(ほほえみ)

この時お釈迦さまは、もどもどどんな極悪人も救いとる、阿弥陀仏の極樂淨土へ生まれさせようと思っておられたからです。お釈迦さまの微笑(ほほえみ)から放たれた光明が、幽閉されていたビンバシャラ王の心を照らしたために、ビンバシャラ王に心眼が開けたと説かれています。



## 2、絶望した韋提希は、釈尊に救いを求める

「韋提希よ、そなたがお慕いする阿弥陀仏は、ここを去ること遠からぬところにいられる。もしそなたの心のまなこが開けるならば、彼の阿弥陀仏が身边により添いたもうことに気づくであろう。心から阿弥陀仏とその淨土を思い浮かべるがよい。今からそなたと未來の人々のために、もうもろのたとえを説いて彼の國に生れる方法を示してあげよう」といわれ、十六項目の教えをお説きになつたのです

## 3、極樂淨土へ往生する方法

心が散り乱れたままで行う善、散善(さんぜん)をおおまかに説かれます。「彼の國に生まれようと思う人は、世福(せふく)と戒福(かいふく)と行福(ぎょうふく)三福(さんふく)をおやりなさい」